

【養鶏夜話】第3話

オリンピック選手といかもの食い

小野 登志男

オリンピックのホープとして岡山国体以来有名になり、このごろでは日刊紙や週刊誌の紙面までにぎわしている女子背泳のオリンピック選手木原美知子さんは甥の友人で、小学生のときからチョイチョイ小宅へ遊びに来ていました。食物に好き嫌いがひどく、鶏肉は食べませんでした。岡山国体が終わって間もなく遊びに来たとき、スポーツの選手がそれではいけないと、我が家自慢のブロイラー料理をなだめすかして食べさせました。それからブロイラーを喜んで食べるようになり、今年の正月にきたときは、大食いである甥の2倍ほども平げました。そして、正月でも忘れずに持参したスポーツウェアに着替え、しばらくトレーニングに汗を流して帰りました。すくすくと身も心ものびのびとしたかわいい少女選手木原が、ブロイラーをしっかり食べて、オリンピックで金メダルを取るよう祈りたい。

なお、愛称を「ミミー」と呼ぶなんて書いてある紹介文を数回もみましたが、あれはうっかりするとミミー・キハラなんて軽薄な呼び名のように誤解されやすいが、実は当地方で何処でもよく使っている小児語のミーミーです。甥等もミーミーとかミーミーちゃんとよんでいます。オリンピックには勝ってもらいたいが、ミミー・キハラにはなってもらいたくない気がします。

小宅を訪ねて下さる方にも、どうしても鶏肉が好きになるようにつくしています。そのかわり、チョイチョイいかものをそれといわずに食べさせておもしろがりますが、いかにも大むね食卓へ運ぶまでに時間が掛かるので、いつでもというわけにはまいりません。そのいかものについて、こちらがやられました。私自身が直接経験したのではありませんが一。

初生雛の要件で石川県のN氏が事務所を来訪されたとき、応対に出たH君に、携帯用薬の缶から、何となく怪しげなシロモノを取り出してのめとおっしゃいます。強精強壯剤で大変よくきくと、ご自分も1つ口の中へ入れました。H君がためらっていると、その正体をあかさされました。鶏の胆嚢を、赤外線乾燥したものとのことです。H君は種鶏場員の面目にかけてそれを1つまるのみしました。胆汁の臭いと苦味が口に残って、変な気持ちだったそうです。このしろものを、1個13円50銭で漢方薬店が引きとってくれるのだそうです。あいにくその方の知識がありませんから、鶏の胆嚢から作った薬がどんなものか知りませんが、しかし、とにかく漢方薬店が買ってくれるのですから、何らかの形で、何かにきく薬になっているのでしょう。昔から有名な熊の胆（クマのイ）が家庭置薬にもありますが、ゲスの考えで、案外トリのイがクマのイの増量剤にでも化けているのではないかとかんぐっていましたが、その後、北陸の地方でもそのままの形で使われていると教えてくださった人があります。

H君は、トリのイをのんだ日の夜宴会に出席していつになくすごしましたが、翌朝きわめて快適であったそうです。但し、あの方の効果は聞きもらしました。